

機関名: **(地独)北海道立総合研究機構水産研究本部**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: **(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	●青森県日本海沿岸の一本釣によるスルメイカの5～6月累積漁獲量は、前年比9%、過去5カ年平均比10%と極端な不漁であった。 出典:漁海況速報ウオダス(データ収集先:5漁協)	水産海洋・漁場保全関係 ●対馬暖流域の各層水温はやや高めで推移した。本県沖の暖流幅も広く、5月ははなはだ広めとなった。5月には本県沖で対馬暖流の蛇行がみられた。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **秋田県水産振興センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: **山形県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	●4月に底びき網でフグ類(主にマフゲ)が多獲(82トン: 前年比18335%)された。	特になし	特になし	特になし

機関名: **新潟県水産海洋研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	●マイワシの漁獲量がほとんど見られていない。県内主要定置網の4～6月の漁獲量が0.5トン(5カ年平均では104.4トン)1～3月の漁獲量も0トン(5カ年平均では72.0トン)で今年は極端に少ない。1～6月の漁獲量が1トンを下回ったのは1981年以降では2001年に続いて2回目 ※マイワシ以外でも特筆すべき量ではないが底びき網や板びき網でも全般に漁獲は少なめで推移している(前年比で85%程度)。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **富山県農林水産総合技術センター水産研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	●富山県における主要魚種の1月から6月下旬までの総漁獲量は5,836トンで、前年を大きく下回った(前年同期14,781トン 対前年比40%)。 ●魚種別では、マイワシが15トン(前年同期7,761トン)、マアジ類が885トン(前年同期1,720トン)と前年と比較して大きく下回った。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **石川県水産総合センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: **福井県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	●4月～6月までのブリ類漁獲量は、前年比52%の不漁であった。特徴的な事象として、7kg以上のブリ銘柄が前年比190%と豊漁であったのに対し、例年漁獲の主体となるツバス～ワラサ銘柄が前年比23～38%の不漁であった。	水産海洋・漁場保全関係 特になし	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **京都府農林水産技術センター海洋センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: **兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 ●鳥根～京都沖で操業する沖底船からの情報で、漁期終盤(5月連休以降)に流れ藻の視認、入網が例年に無く多かった。選別用水槽が一杯になったり、航行中のプロペラ回転数が落ちることもあった。 ●調査船「たじま」の駆け廻し試験操業でも、5/25・26の但馬沖水深260mおよび560～580mで92～108kg/網の入網があった。5/30に「たじま」が鳥取県境沖海面で採集した流れ藻はアカモクと見られた。通常流れ藻となる成熟した株は少なく、未熟な藻体(全体的に黄色っぽい)が主体を成していた。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **鳥取県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	【境港旋網】 ●マサバ 例年、マサバは1～3月にまとまった水揚げがあり、4月以降は大幅に減少する。しかし、本年は4～6月に5,500tもの水揚げがあり、漁期が長かった(同時期の過去5カ年の平均水揚量 970t)。	水産海洋・漁場保全関係 ●5月に沿岸域の海面を流れ藻が例年にない多さで漂い、漁船のスクリューに巻き付くなど、航行や操業に影響がでた。 ●6月には海底に沈んだ流れ藻が小型底びき網に多く入網し、擦れによる漁獲物の損傷や曳網時間の短縮を余儀なくされるなどの影響がでた。特に県西部の海底に流れ藻が多くみられた。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **鳥取県栽培漁業センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 ●5～6月大量の流れ藻による小型底びき網漁業等への漁業被害発生。 ●ノクテルカ・シンチラスによる赤潮の発生が点在して確認されたが、漁業被害は確認されていない。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **鳥根県水産技術センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	水産海洋・漁場保全関係 ●5月上旬～下旬、県西部や県東部の鳥根半島の各地で海岸に大量のアカモクが漂着した。鳥根半島の各地では定置網にアカモクが大量に入網し、海藻の重みで短網が破網する被害も出た。漂着したアカモクは劣化具合やその他の特徴から流れ藻として長期間漂流したものと考えられた。	水産増養殖関係 特になし	その他(水産利用加工、水産経済、災害等) 特になし

機関名: **山口県水産研究センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成29年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし